Toilet Topics

「京都東山トイレ診断士の厠堂」オープン

～公衆トイレのネーミングライツ第3弾～

東大路通りの喧騒を離れ、春光院と八坂の塔を抜けるように坂を上がっていくと、「ねねの道」と呼ばれる瀟洒（しょうしゃ）な石畳が高台寺公園に沿って続いています。「京都東山トイレ診断士の厠堂」は、その高台寺公園の一角に、緑の木々と香しい花々に囲まれて佇（たたず）んでいました。

高台寺は、桃山時代を代表する美しい池庭と数々の重要文化財を擁（よう）し、指折りの観光スポットとして知られる人気エリア。「京都東山トイレ診断士の厠堂」のある一角は、古くから人力車の待機場所としても定着しており、当然トイレを探す観光客も多い場所です。大変厳しい景観条例で街並みが守られている地区だけあって、派手な看板は掲げられませんが、客待ちの車夫さんが「トイレはこちらですよ」と親切に声を掛けている姿が印象的でした。

いざ、入ってみると…これだけの利用者がいるのにキレイ！臭くない！アメニティ製品のピピダリアにセーフシート、ボンリーベも勢揃い。洗面台周りも明るくて清潔、バッグを置ける台も充実。お化粧直しの女性も大喜びですね！綺麗なトイレはキレイに使ってくれるもの。改めてそんな風に感じさせてくれる癒しの空間です。海外からの観光客も多いこの場所で、トイレの 4A（安心・安全・明るい・アメニティ）をほっこりとアピールしている。すぐにでもトイレ診断士の名を世界に広めてくれるでしょう。着物姿のおなごはんが良く似合う、はんなりと美しい公衆トイレです。

（レポート：呂宋壺乃坂）

▲トイレ入口のピクトサイン

住所：京都市東山区下河原町526番地1
高台寺公園内

【ネーミングライツの概要】
第1弾の渋谷、第2弾の新横浜につづく、第3弾のネーミングライツです。今回はアメニティ本部の主導ではなく、京都市の加盟店「アメニティコスモス」「アメニティスマイル」「アメニティBee」の3社が主導します。これは、京都市でネーミングライツ募集の情報を受けた3社が、地元への地域貢献を考え契約に至りました。既にリフレッシュ作業を終えて快適になった厠堂を、今後は継続的に維持管理してまいります。

主婦ライター・水仙の 水に流せない"厠"論

第4回　「トイレでスマホ」は良い？ 悪い？

水仙 美樹
アメニティに約10年間勤務したのち、第二子出産を機に退職。一念発起して、フリーライターの道へ。現在は主婦＆ママの視点から地域やアートなどの情報を発信中。トイレウォッチも大好き！

ここ1、2年で爆発的に増えているスマホユーザー。私の周りでも7割くらいの主婦がスマホを持っています。家事をしながら、会話しながらでも指1本で操作できるので、忙しい主婦の強い味方でもあります。

必然的にトイレでスマホを使う人も多いようで、2012年にアメリカで実施された調査では、モバイルユーザーのうち男性の74%、女性の76%以上が、トイレに端末を持ち込んでいるという結果が出ています。女性はトイレの際に必ず個室に入るので、男性よりもその割合が高いようです。かくいう私もその 1 人。なぜって、便座に座っている時間がもったいないから。「ながら」が得意だと言われる女性は、「メイクをしながら子供を着替えさせ、スマホをチョイ読み」なんて朝飯前。「トイレでスマホ」も同様で、用を足しながらでも器用にスマホを操作できてしまいます。

とはいえ「トイレでスマホ」には困った一面もあります。泣くに泣けない「水没」の危険性と、それによる便器の詰まり。公共のトイレでは盗撮を疑われたり、利用時間が長くなって他の利用者が迷惑することも。さらに温水洗浄便座用の電源で充電するふとどき者まで…！

最近では歩きスマホに対する規制の要望が世論として高まってきており、「トイレでスマホ」の迷惑事例が増えてくれば、こちらも規制の対象になってくるかも…!?

マナーとしても、公共トイレでのスマホ使用は控えたいものですね。

編集後記

今回の特集では、学校という場面に焦点をあて、学校でトイレに行けない子供たちについて考えました。本文でも申しましたが、設備の問題や4Kトイレの問題などは、早急に何とかしてあげたいものです。ただ、子供同士の関係上、排便が冷やかしの的にされることについては、排便の大切さを教育する"便育（べんいく）"の必要性を感じます。（雉撃弾治）

information！

トイレ診断士達のブログ と検索してください。
http://www.toireshindan.com/

「トイレ診断士」によるブログをご存知ですか。全国のトイレ診断士が、トイレを通して思うこと、感じること、診断の実情などを赤裸々に語っています。お気軽に覗いてみてください。

あなたの町のアメニティネットワーク

アメニティ本部フリーダイヤル 0120-57-1110（コナ イイ トイレ）

トイレを楽しくする新聞
かわや版
KAWAYABAN
2013 夏号 Vol. 44
http://www.amenity-network.net/
Amenity Network
［発行所］株式会社アメニティ
〒221-0863 横浜市神奈川区羽沢町685
TEL:045-371-7676(代) FAX:045-371-7717
Copyright©2013 AMENITY INC. All rights reserved.
本紙からの無断転載を固く禁じます。

特集 学校のトイレ事情

～学校でトイレに行けない子供たち～

商業施設では"トイレはお店の顔"と考え、新しい設備や居心地よいデザインを導入し、メンテナンスにも力を入れています。一般家庭においてもトイレタイムへの関心は高く、快適性を追求することが多いようです。

一方、学校のトイレはどうでしょうか。世間の流れに乗れていないようで、未だに4Kトイレと言われるトイレも多く残ります。

学校トイレは和式が主流

2011年1月の文部科学省のまとめで、建築後 25 年以上経過する公立学校は全体の70%と発表されました。その内、ほとんどの学校ではトイレの改修はしておらず、学校トイレの大便器は洋式より和式の方が主流のままです。

そのため、洋式便器に慣れた現代の子供たちは、上手に和式便器が使えない子も多く、中には小学校に入って初めて和式便器に直面するという生徒もいるそうです。本人には、かなり切実な事態です。

そして、なかなか和式便器を克服できない生徒は、いわゆる「学校のトイレに行けない症候群」となってしまいます。

学校トイレに行きたくない理由

しかし、子供たちが学校でトイレに行きたがらない理由は、便器が和式であることだけではありません。そこには、「臭い・汚い・怖い・暗い」と言われる4Kトイレが影響しています。

「トイレが臭いから我慢する」「トイレが汚いから我慢する」という生徒も多いのです。昨今の快適なトイレ環境で育った子供たちは、4K トイレへの抵抗が強く、その感情は、昔より今の子供たちの方が強いのかも知れません。

更に学校生活特有の「学校でトイレに行くところを人に見られると恥ずかしい」「学校で大便をすると友達に『うんちくん』と冷やかされる」なども合わさって、「学校のトイレに行けない症候群」が後を絶たないようです。

学校トイレに行けるようにするには？

「和式便器」「4K トイレ」「恥ずかしい・からかわれる」など、学校でトイレに行きたくない理由には、様々な要因が絡んでいます。

ここに、改善のヒントとなりそうな、トイレ関連メーカーで作る「学校のトイレ研究会」が行った調査があります。2010 年、某公立小学校で 5・6 年生 166 人を対象に、「トイレの大規模修繕の前後で『学校でトイレに行くのを我慢してしまうことがあるか』」と、アンケートを実施しました。結果、トイレの改修工事前に「我慢したことがある」という生徒が75名いたのに対し、改修後は 31 名にまで減少しました。これは、トイレが快適になったことで、子供たちの行動や意識に変化が起こったといえます。（※参考表：「我慢したことがある」と回答した生徒を対象に、その理由をたずねた調査）

それならば、トイレの修繕を更に進めれば良いのでしょうが、大規模修繕には多額の費用がかかるため、思うように進まないのも現実です。

そして忘れてはいけないのが、いくらトイレを修繕しても、日々の清掃やメンテナンスを怠ると、「臭い」「汚い」などの問題は直ぐに再発するということです。

「学校のトイレに行けない症候群」の対策は、"快適なトイレを作ったら完了" ではなく、"快適なトイレをいかに継続するか" という維持管理が必要なのです。

まとめ

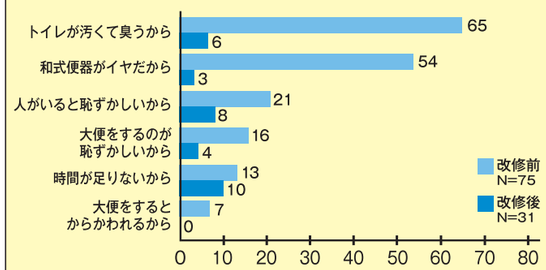
本来、排泄は生理現象であり、便意を我慢すれば健康に良くありません。そればかりか、集中力の低下から成績にも悪影響が出てくるという調査結果もあります。

かく言う私も、学校での大便には抵抗があり、我慢していたことを思い出します。そんな経験もあるので、今の子供たちには、学校のトイレでも気持ちよく排泄してもらいたいと願います。

（文：雉撃弾治）

参考表

「学校でトイレに行くのを我慢してしまうことがある」と回答した理由
（トイレ改修前後のアンケート調査）



調査概要（出典：学校のトイレ研究会研究誌 14 号）
◆調査時期：2010 年 7 月（改修前）・2010 年 11月（改修後）
◆調査対象：大阪府和泉市 某公立小学校 5・6 年生「学校でトイレに行くのを我慢してしまうことがある」と回答した生徒75名

〈学校トイレの利用者〉

学校のトイレを使うのは生徒や先生だけではありません。全国の学校は、地域のコミュニティの場にもなっており、様々な年代の方々が利用します。災害時には避難所となることも多く、足腰の弱いお年寄りの方が和式では利用できないというケースもあるなど、様々なケースの想定が必要です。

参考・出展
◇学校のトイレ研究会発行：学校のトイレ研究会 研究誌
◇日経ビジネスオンライン：2013 年 3 月 14 日記事

文献に学ぶ「トイレ文化」

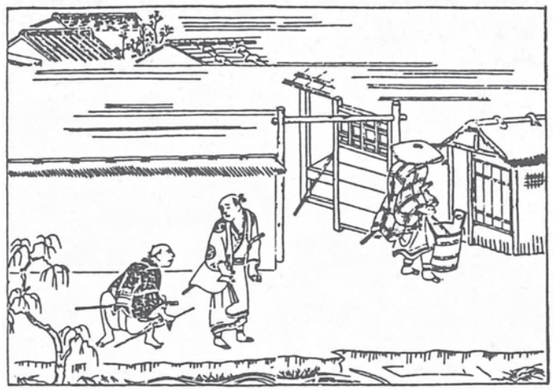
このコーナーでは、「トイレ文化」に深く注目し、トイレに関する興味深い文献をご紹介致します。

第4回 庶民生活と便所

南蛮人も注目した路傍の公衆便所

知らない町を歩いていて、急に尿意をもよおして困ったという経験は、誰でも一度や二度はある。そんな時、公衆便所に出くわすとホッとするものだ。そこで公衆便所のルーツをさぐってみよう。

日本の公衆便所のルーツは桃山時代まで遡(さかのぼ)ることができる。永禄6(1563)年に来日し、慶長2(1597)年、長崎で没したポルトガル人宣教師フロイスが、その著『日欧文化比較』の中で、**「欧州人の便所は家屋の後の方のなるべく人目につかない場所に設けられているのに、日本人の便所は家の前にあって、すべての人に開放している」**と記し、ヨーロッパではあまり見られないもののひとつとして、路傍(ろぼう)の公衆便所の存在に注目している。ヨーロッパの都市では、日本の江戸時代中期にあたる18世紀になっても、おまるの中身を家の窓から往来に投げ捨てる人が多く、道路には異臭があふれていたという。当時来日したヨーロッパ人は、日本の都市は世界的にみても最も清潔である、と口をそろえて誉めているが、清潔さを保っていたシステムのひとつに、この路傍便所の存在を考えることができよう。



▲ 町木戸際の小便担桶(日本かわや図絵)・『図録・都市生活史事典』所引・柏書房刊)

江戸時代の路傍便所は西高東低、つまり上方に多く普及していたらしい。それは『守貞漫稿』という随筆に、**「京坂は路傍諸(しょしょ)所尿桶を置て往来人の尿を棄す…江戸は路傍に尿所稀(まれ)にあるのみ」**と記されていることからも窺(うかが)える。実際、『今昔較』という書物によれば、江戸八百八町では真昼間から誰構うことなく往来のまん中で行い、誰もこれを咎(とが)める者はなかったとあるから、路傍便所は稀だったようだ。

これに対して京都では、四辻(よつつじ)の木戸脇等に桶を置いて辻便所とした。ここは男性だけでなく、美しい京女も堂々と利用していた。江戸の戯作者(げさくしゃ)曲亭馬琴(きょくていばきん)はその様子を**「京の家々厠の前に小便担桶(たご)ありて、女もそれへ小便をする故に、富家の女房も小便は悉(ことごと)く立て居てするなり。(中略)或(あるい)は供2、3人つれたる女、道ばたの小便担桶へ立ながら尻の方をむけて小便をするに耻(はじ)るいろなく笑ふ人なし」**と書いている。東男の馬琴は年来あこがれていた京女の別の一面をみて、びっくり仰天したことであろう。

大阪では市制が施行された明治22(1889)年、市内に「路傍便所」と称する公衆便所が、なんと1500ヵ所も存在していたというから、上方の路傍便所の伝統は、近代になっても脈々と受け継がれていたのである。

[出典] 便所のはなし(49-50・55-57頁)
発行所:鹿島出版会
著　者:谷 直樹・遠州敦子
発　行:1986年12月25日(第1刷)

農業生産を最優先にした農家の外便所

北国小便という小咄(こばなし)がある。雪の日の夜中に、小便に行きたくなって目がさめた。便所は屋外にあるので、起きて雨戸をあけようとしたが、凍りついていてあかない。仕方がないので敷居へ小便をかけて氷をとかして戸をあけた。「これでよし」と表へ出たら、用がなかった。

この咄は北国の外便所を取材したものであるが、ごく最近まで見られた農家の便所は、室内ではなく屋外にあり・主屋と離れたところに別棟の便所を建てたり、背戸口近くの軒下や、納屋、長屋門の端に設ける場合もあった。また小便所を門口(かどぐち)の脇に作り、門脇(かどわき)便所あるいは戸口(とぐち)便所と称するところもあった。便所の古語である厠の語源のひとつに、「厠=側屋」説があり、**「厠は母屋の中に設くべきものに非ず、必ず離れ屋か又は縁側の端などに在るべき物なり」**と説かれているが、この説の当否はともかく、その内容は外便所のありようとよく符号している。

こうした外便所の形式は、農家にとっては必要なものであった。江戸中期の元禄(1688～1704)頃の著作になる『百姓伝記』という農業啓蒙書には、便所と大小便の利用に関してわざわざ一巻を割き、つぎのように述べている。

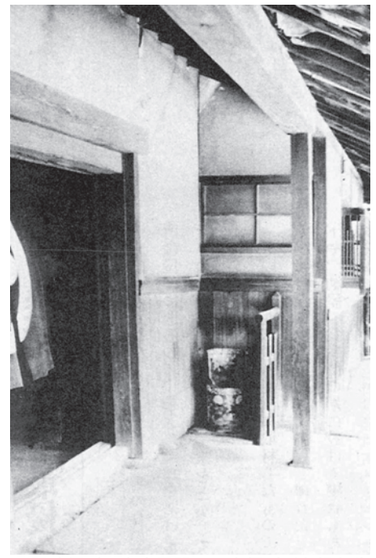
「大小便は土を肥やし、作物を養う効果をもっているから、良い作物を作って諸民を養うことを天職とする農民は、これを粗末にしてはいけない。便所は主屋の近くだけでなく、屋敷地の隅、田畑の近くにも小さなものをこしらえて、あらゆる機会をとらえて大小便を集めるべきだと説いている。そして便所を設ける方角としては、大小便の腐敗を早く進ませるように、東南の陽気をうけるところを選ぶよう指導し、便所の構造は雨が入らないようにと注意をしている。せっかくの肥に雨が入りこんだら薄くなって利き目が悪くなり、桶も早く腐るというわけである」

つまり農家の外便所は、排泄物を農業生産に活用するという点において、きわめて合理的な便所であり、また実際、農作業の合い間に泥のついたままの姿で、気兼ねなく利用できる便利な面もあった。先ほど紹介した門脇便所などは、家人だけでなく来客の分まで集めて肥料にしようという涙ぐましい工夫のあととみることもできる。

▲ 軒便所:農家入口の小便所(吉田家住宅・便利堂刊『京郊民家譜』より)

しかし外便所は農業生産を強調する余り、生活上の利便性を犠牲にしたともいえる。昼間はともかく、夜間使用するとなると遠く、暗く、そして冬場は寒い。寒さについては、北国小便は小咄のおちがつくだけで良いが、それどころではない場合もある。屋内便所が普及した今日でも、便所は脳卒中の発生場所の第2位にランクされているから、外便所の恐ろしさはそれをはるかに上回るものであることが容易に想像できよう。

外便所の不便さをいうなら、さしずめ「遠・暗・寒」であろうか。



▲ 門脇便所:大庄屋門口の小便所(主婦と生活社刊『滅び行く民家』より)